

第2回防府市水産総合交流施設指定候補者選定委員会議事録（要旨）

○日時場所 令和7年10月24日（金）午後2時から午後3時40分まで
ルルサス文化センター本館1階 交流室1

○出席委員 6人

- ・防府市水産総合交流施設指定候補者選定委員会設置要綱第3条では、7名を充てることとなっているが、第3号の山口県漁業協同組合（以下「県漁協」という。）については、協議事項に利害関係（指定候補者の申請団体）のあることから、同要綱第4条に該当し、議事に参与することができない。そのため6名で開催した。
- ・委員総数7人中6人が出席し、過半数に達しているため委員会は成立。

○副委員長の指名

- ・副委員長の吉武委員が諸事情により交代となったため、中司委員長が新たに副委員長を指名し、吉武委員の後任である枝広委員が指名された。

○開催形態

- ・会議は、公開で行われることにより、公正かつ円滑な審議に支障が生じる恐れがあることから、非公開で開催。

○開催内容

1 面接及び評価の実施手順について

- ・事務局から資料により本日の実施手順を説明。
- ・評価に当たって、審査項目4、評価項目②の職員配置計画について、事務局で予め聞き取った内容を説明。
- ・各委員間で質疑内容の調整を実施した。

2 面接（申請団体による事業提案）

（1）申請団体である県漁協から事業提案

（2）委員からの質疑

質疑 今後の青果市場の移転に当たり、連携に向けての期待と効果について

回答 潮彩市場の1階には青果店があり、主に青果市場から仕入れているので、利便性が高まる。品物が不足時の仕入れ対応にも期待している。

質疑 インスタグラムの運用とインバウンド対応としての免税販売の導入について

回答 インスタグラムについては専門の方を招いて研修を受講。助言に基づき毎日の更新を実施している。今後は動画の配信も増やしていきたい。外国人の来客は相当数あるが、防府市の居住者か観光客かは判断できていない。また、商品は全て税込みのため、当面は現状の運用で進めたい。

質疑 平日の集客にはリピーターを増やすことが必要と考えるが、平日の集客につながるイベントや企画などの考え方について

回答 一般的な道の駅と比べると地元の来客が多い。アンケートも実施しており、内容はすぐにテナントに伝えて改善を図っている。イベントについては、内容を事前にテナントに伝え、それに合わせた商品の陳列等を調整している。

質疑 4年半の実績に基づく、今後の水産振興について

回答 漁協は、市場に水揚げされた魚を競り売りしているが、一度に大量に獲れた場合、魚価維持のため、漁協で買い支えることがある。そうした魚を潮彩市場のテナントが使いやすいように加工したり、エビなどは急速冷凍して潮彩市場の漁協の直売コーナーで販売したりしている。非常に新鮮で、来客者に喜ばれることが多い。季節によっても漁獲される魚が異なるので、そうした商品の販売種類を増やしていきたい。

質疑 メバル焼き等の自主事業の展開について

回答 メバル焼きは始めた昨冬は売り上げが伸びたが、夏場は厳しい状況。今は新しいことを始めるのではなく、既存の自主事業の充実を図っていきたい。なお、自主事業の実施は、空きテナントを埋め、指定管理者の立場では利用料収入の増加につながるので、まずは現状の定着に努めたい。

質疑 キャッシュレス対応の販売について

回答 現在、テナント十数店舗のうち、3店舗が対応。道の駅も実施しているところが多いが、利益率が非常に低くなっている現状で、手数料3%（PayPay）が響き、やめる方向の話も聞いている。クレジットカードの手数料は更に高く、現在は足踏みしている状況である。当面はキャッシュレスを実施しない分、価格での還元で対応していきたい。

3 指定候補者の選定について

- ・評価点数421点で、最低評価点数を超えており、施設の設置目的を踏まえた水産業の活性化や交流人口の拡大が図られる提案等もある。申請団体である山口県漁協を指定候補者とするについて審議し、山口県漁協が指定候補者に選定された。

4 審査結果の公表について

- ・事務局から示された庁内統一の（案）で公表することとした。

○決定事項

水産総合交流施設の指定候補者

山口県漁業協同組合（山口県下関市大和町一丁目16番1号下関漁港ビル）